

# ‘カズサキヨモギ’の茎葉栽培における雑草防除方法の検討

## 背景と目的

‘カズサキヨモギ’（*Artemisia princeps* Pamp. 以下、ヨモギ）の茎葉は茶や入浴剤などの加工品に使われており、大和高原地域では2021年度から栽培が始まっています。ヨモギの茎葉栽培では収穫時の雑草混入を防ぐために、定期的な除草が必要ですが、作業負担が大きいことが問題です。そこで、省力的な雑草防除技術の確立を目指しました。



## 結果

畝表面に以下の処理を施し、除草効果と茎葉収量を調査しました。

- ①無処理区
- ②切わら被覆（切わら区）
- ③バーナーによる熱処理（バーナー区）
- ④穴あきマルチ（孔径8cm・4条）の被覆（マルチ区）

- すべての試験区で茎葉は4回収穫しました。
- マルチ区で最も雑草量が少なく、除草時間が短くなりました（表1）。
- マルチ区において、単位面積あたりのヨモギの茎数が減少し、茎葉収量は他の試験区と比較して約3割減少しましたが、有意差はありませんでした（図1）。

表1 処理方法の違いによる雑草量と除草時間の影響

試験区	雑草量 (g/m <sup>2</sup> )	除草時間 (分・人/m <sup>2</sup> )
無処理	546 a <sup>z)</sup>	13.5 a
切わら	543 a	12.5 a
バーナー	428 ab	10.1 ab
マルチ	152 b	4.0 b

<sup>z)</sup> 異なるアルファベット間にTukeyの多重検定法により5%水準で有意差あり（n=3）

▶ 穴あきマルチを用いることで雑草の発生を抑え、除草作業を省力的に行うことができました。

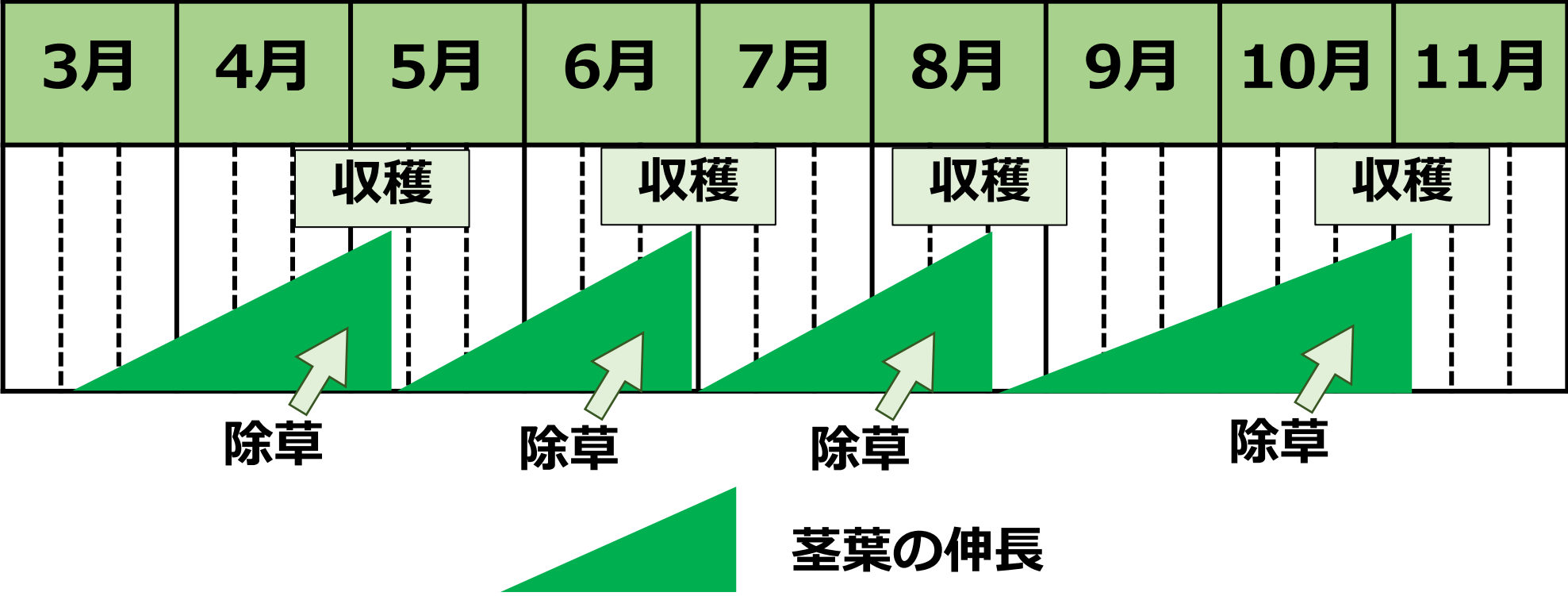
穴あきマルチがヨモギ茎葉栽培において最も実用的な雑草防除資材であると考えられます。

## まとめと今後の取り組み

ヨモギ茎葉栽培における雑草防除方法を検討したところ、穴あきマルチが最も高い雑草防除効果を示し、除草作業を省力的に行うことができました。2024年の試験ではマルチ区の茎葉収量が約3割減少しましたが、翌年に同じ穴あきマルチを用いて年次変動の影響を調査したところ、収量の減少は約1割までにとどまりました。以上の結果から、穴あきマルチの利用が雑草防除に有効であると考えられます。

(2025年12月作成)

ヨモギ茎葉栽培における除草および収穫時期（2024年）



バーナーによる熱処理



穴あきマルチの被覆



収穫前の除草作業の様子

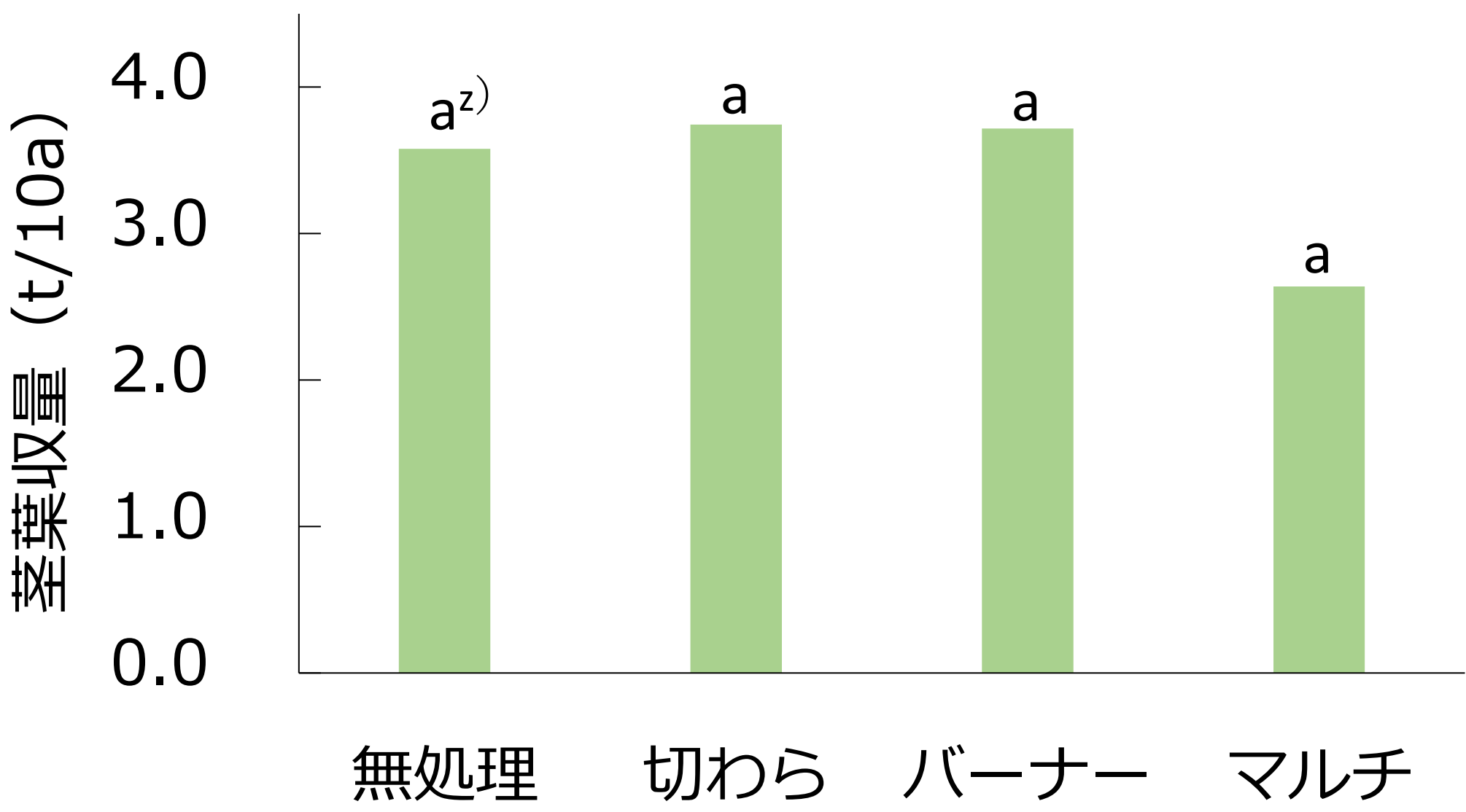


図1 処理方法の違いが茎葉収量に及ぼす影響

<sup>z)</sup> 同じアルファベット間はTukeyの多重検定法により5%水準で有意差なし（n=3）